

KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

No.370 2021

鹿児島ワイズメンズクラブ

10月号

- 国際会長 : Kim Sang-chae [韓国] 世界とともにワイズメン Y's Men with the World
- アジア会長 : 大野 勉 [神戸ポート] 100年を越えて変革しよう Make a difference beyond the 100th
- 西日本区理事 : 新山 兼司 [京都トップス] Challenges for the future 未来への挑戦
- 九州部部长 : 森 律子 [八代] 小さなことにも大きな愛を込めて。そして未来へ
With great love for the little things And towards the future...



SDG's を鹿児島で!

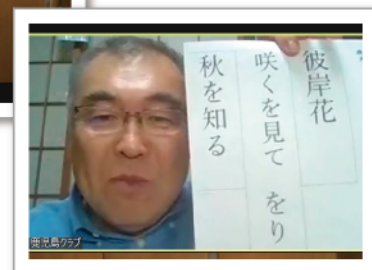
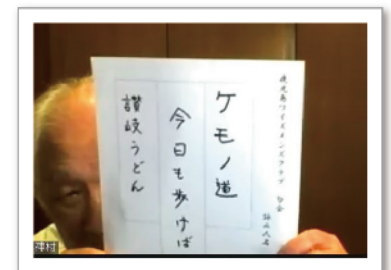
It's time to think about SDG's in Kagoshima.

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

9月例会報告

9月の定例会はコロナウィルス蔓延の為、オンラインによる例会とさせていただきました。ただ、オンラインだけではつまらないなあと、皆さんの思いを5・7・5の句にまとめて、発表していただくという提案をさせてもらいました。季語とか形式にとらわれず、自由に作っていただきました。川柳や薩摩狂句でもO.Kです。蓋を開けてみますと、皆さん力作揃いで、笑い溢れる楽しい発表会となりました。今後も発展させた形で、継続させて参ろうと存じます。

鹿児島クラブ 中堀 清哲





会長通信

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.



私は霧島高原の標高450m 付近に住んでおりますが、今年は10月半ばになっても昼間は28度～30度の高温で、いつまでも夏状態です。依然として茄子やピーマンが収穫出来ます。例年ならば、半袖では肌寒さを覚えるはずですが...、今年は妙ですね。そして、ある日突然、冬がやってくるのでしょうか。最近、地球温暖化の影響を肌でひしひしと感じることが多くなりました。産業革命以降、人間は豊かさを求め続けて便利な社会を築き上げました。今ある便利さを得た代償は大きかったですね。この、地球温暖化の考え方を具体的に数学的に数式に表した方が日本人だったことが、先日わかりました。今年のノーベル物理学賞を受賞なさった真鍋淑郎氏は1969年に世界で初めてコンピューターで気候変動モデルを作成し、地球温暖化予測の基礎を築いたのです。つまり、二酸化炭素(CO²)が地球温暖化に影響することを物理的に具体的に発表されたのです。しかし、真鍋さんは、日本の研究分野組織の縦割りなどに嫌気がさしてアメリカに移住されました。国籍もアメリカです。いわゆる「頭脳流失」です。マスコミやメディアはノーベル賞受賞を称賛するだけで、お祭り騒ぎするだけです。この頭脳流失についてはあまり触れようとはしません。技術立国を自負してきた日本人が最も危機感を持たなければならない現象なのです。過去にもノーベル賞を受賞された科学者の多くが日本の科学技術のあり様に危機感を訴えています。科学技術分野に十分な予算を付け基礎研究を充実させなければ、日本は科学技術立国から凋落するというのです。資源に乏しい日本が今のような豊かさを享受できたのは技術力があってこそその結果なのです。先進国と言われながら新型コロナウイルスが蔓延してもワクチンが製造できない、というような危機的状況が将来的には多くの分野で起こる事でしょう。目先の利益追求だけでなく、未来を見据えた政策を立てる時ではないでしょうか。今年のノーベル賞に真鍋さんが受賞され、喜んでばかりはおれないなあと思います。子供や若者に答えや結果だけを早く求める教育ではなく、考える力や感受性を育むことが重要です。それが出来るのがYMCAであってほしいと思います。

今月は3ヶ月ぶりの対面での例会です。直接、お互いに会える喜びを分かち合ひましょう。万が一の場合を考慮し、食事は控えさせていただきます。どうぞ、ご理解くださいますようよろしくお願い申し上げます。



理事通信

西日本区理事 新山 兼司

Challenges for the future

未来への挑戦



第16回夏季パラリンピック東京大会は9月5日東京・国立競技場で閉会式が行われ、13日間の戦いに幕を下ろしました。五輪同様に新型コロナウイルスの影響で1年延期となり緊急事態宣言下で原則無観客の開催でしたが、世界中から集まった障害のある約4,400名の選手が個性や能力を発揮し多様性を尊重し合う「共生社会」の意義を発信され、勇気と元気そして感動を与えていただいた大会でした。

9月も終わりに近づくと、ようやく秋らしくなってきました。新型コロナの影響は続いています。西日本区各部・各クラブの皆様は、コロナに負けず素晴らしい活動をされています。全てのご紹介は出来ませんが一部ご紹介をいたします。

8月10日～12日チアダンスのサマーキャンプを開催されました。事前の準備段階コロナ禍でのキャンプの在り方を何度も話し合い、最終的に国立大隅自然の家にて参加者60名で実施されました。今回のキャンプでは、3つのテーマを考えることが目的とされています。一つ目は「あきらめない」というキーワードと共に、学びを深められました。二つ目は「ポジティブに」YMCA運動とはポジティブネットのある社会実現を目指して活動する運動体。三つ目は「互いに認め合い、高めあう」キャンプでは互いの違うところを認め合うこと、そしてその違いを争いの種にするのではなく、高めあうために、どうしたらよいのかを考えるキャンプでした。鹿児島クラブ8月号ブリテン鹿児島YMCAからの報告です。

次に姫路グローバルクラブ主催の第2回ひとり親家庭のお子様限定「楽しさいっぱいディキャンプ」のご報告です。新型コロナウイルスの影響による自粛生活で子供たちのストレスが溜まっているのではないかと、そのストレス発散になればとの願いで昨年同様ディキャンプを8月29日に開催されました。広報として、朝日・神戸・リビング姫路の各社新聞に掲載、又ラジオFMゲンキに出演されました。

9月の強調月間は「EMC YES」です。今期最重点目標である300名の会員増強に際して、京都トップスクラブが9月例会にて5名の新入会員入会式を開催されました。京都トップスクラブでは、毎月EMCゲスト交流会を京都YMCAにて開催されています。ゲスト参加者の皆様にYMCAとは?ワイズメンズクラブとは?京都トップスクラブとは?の説明をさせて頂き、賛同を頂いたゲストの方々に例会に参加して頂き、入会へと導いています。西日本区牧野EMCアドバイザーが説明の役割をされています。<奉仕をする力>(一部抜粋) これをつける事が奉仕クラブ

の原点であり、トップスクラブに入会した皆様が人間力を高め奉仕をする力をつける事が最大の社会奉仕活動につながる。トップスクラブに入会して心の底から良かった!一人でも多くのメンバーの皆様に実感して頂けるようにトップスクラブメンバー一同で入会される皆様を歓迎致します!このトップス力ですら新型コロナに打ち勝ち邁進していきましょう!!京都トップスクラブEMCのご報告です。

会員増強は会員基盤の強化と参加者全員が積極的にかかわり、適応力を高めると考えます。会員増強の成功のカギは、クラブ全体の活力につきます!!新型コロナの影響により楽しみにしていた各部会が中止や延期になっていますが、各部・各クラブの活力が低下しないように今、リーダーとしての発揮のしどころです。どのようにして指揮を高めクラブの求心力を保つか、今一度、原点に帰って考えましょう!!

令和三年九月例会 句会
令和三年九月二十八日

中堀 清哲
彼岸花咲くを見てをり秋を知る

神村 浩
ケモノ道今日も歩けば讃岐うどん
孫メール 共通仏語はボンジュール
免許返納 世間の狭さに老いを知る
トッピング 欲で選べば高くつく
借金が無^ねくな^らず時^{とき}や け死ん前

徳田 穰
赤々と季節はづれのハイビスカス
ハイビスカス 季節はづれに誇らしく

松若 鉄比古
孫の守り守りする爺^{おじい} 守りされる
北閣下 移動乗物 ミサイルで
我が友の酒が泣いてるバツシング
変異株 俺が強いと競いあう
秋風に微かに聞こゆ百舌の声
夕暮れに真つ赤に映えるススキの穂

園屋 高志
副反応 若い証拠と自慢する

山口 真弓
辛い日も 気付けばたくさん 主の恵み
主を語る 聞き入る子らにうながされ
遊ぼうよ 駆け寄る子の手に 励まされる

松永 英明
解除後の 残暑の泡の生ビール



アケビ (木通、通草、山女、丁翁) は、アケビ科の蔓性落葉低木の一種 (学名 : Akebia quinata) であるが、アケビ属 (学名 : Akebia) に属する植物の総称でもある。果実は甘く、秋の味覚を代表する。アケビの名の由来は、秋に楕円形の果実がつき、熟すと縦に割れて白くて甘い果肉と黒い種子を覗かせる様子から、「開け実」の意味で名付けられたものである。アケビは、地方によりアケビカズラ、アクビなどの方言名でもよばれている。中国植物名 (漢名) は、木通 (もくつう) と称される。
ウィキペディア参照

10 企画例会報告 Planning meeting report

日時: 令和3年10月12日 火曜日
19:00 ~ 20:00
場所: Zoom
出席者: 神村、中堀、園屋、徳田、松若、松永

09 定例会報告 Planning meeting report

日時: 令和3年9月28日 火曜日
場所: Zoom
出席者: 7名
司会者: 園屋

9月例会の記録	クラブ在籍者	10名
	出席者	7名
	メネット	0名
	ゲスト	0名
	ビジター	0名
	メイクアップ	0名
	9月出席率	70%

今月の聖句

明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

マタイによる福音書6章34節

鹿児島YMCA報告

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、何事もない日常がこんなにも大切だと気付く日々です。第6波が懸念されている中で、今のうちに備えを万全にしておきたいものですね。

さて、2021年度はコロナ禍でどのようにして社会貢献活動に取り組んでいくかをテーマに、下記の予定を企画しています。ワイズの皆さん、YMCAの個人及び法人会員と共に、支援を必要としている方々のことを思い活動してまいりたいと思います。

I. チャリティー活動・会員交流

チャリティーラン講演会(12月18日)※オンライン

Zoomを活用して、チャリティーラン活動の歴史を振り返り、前田究氏(鹿児島県障がい者スポーツ協会)による障がい児支援、障がいに対しての理解を深める講演を通して、支援を募り障がい児支援を行う。

II. 地域社会貢献、ボランティア、SDGs啓発活動

世界食糧デー支援啓発活動(10月)②飢餓をゼロに

世界食糧デー鹿児島大会で作成されたDVDを賛助会企業に配布し、世界での飢餓の現状を知ることから始め、募金支援につなげていく。

地域清掃活動@谷山地区(11月14日)⑭海の豊かさを守ろう

コロナ禍で増えたアウトドアレジャー機会。鹿児島においては釣りレジャーを家族単位で楽しむ機会が増えた一方、ごみの散乱など海を取り巻く環境が著しく悪化。清掃活動を行うことで、海を守る取り組みを行う。

SDGsフォーラム(1月下旬)※オンライン

法人賛助企業による、SDGsの取り組みを法人賛助会企業各社や地域団体、大学生に対してZoomを介してプレゼンテーションする

III. その他

プロジェクト型寄付についての講演会(1月)※オンライン

コロナ禍で注目を集めるプロジェクト型寄付。どのような形で取り組んでいるのか、事例を踏まえてZoomにて講演します。

ピンクシャツデー運動(2月中旬から最終週)

ピンクシャツを着用し、いじめについて考え、いじめと向き合える社会実現につながる運動をワイズメンズクラブや個人、法人会員と一緒に取り組んでいきます。

鹿児島YMCA 新内 博之